

## 安全意識向上のための事故のグループ懇談手法の開発

重森雅嘉

ヒヤリハット経験や職場の安全に関する工夫など、現場の社員ひとりひとりが持っているリスク情報が共有されにくくなってきている。そこで、リスク情報の共有と安全意識向上を目指した事故のグループ懇談手法を開発した。

これはファシリテータの進行により、4、5人の参加者が事故やヒヤリハットの発生状況、原因、対策などについて経験を中心に話し合うものである。事故のグループ懇談を行うことにより、事故やヒヤリハットの重大性の認識、危険感受性の向上、工夫の共有、リスク経験の共有、対策の難しさの気づき、リスクへの共感が促される。

実際に、運転現場等において事故のグループ懇談を実施し、参加者に、まったく有効でない(1点)～非常に有効である(5点)で評価を求めたところ、平均して4点以上の得点が得られ、このような活動がリスク情報の共有や安全意識の向上に役立つことが確認された。

(鉄道総研報告、2009年9月号)

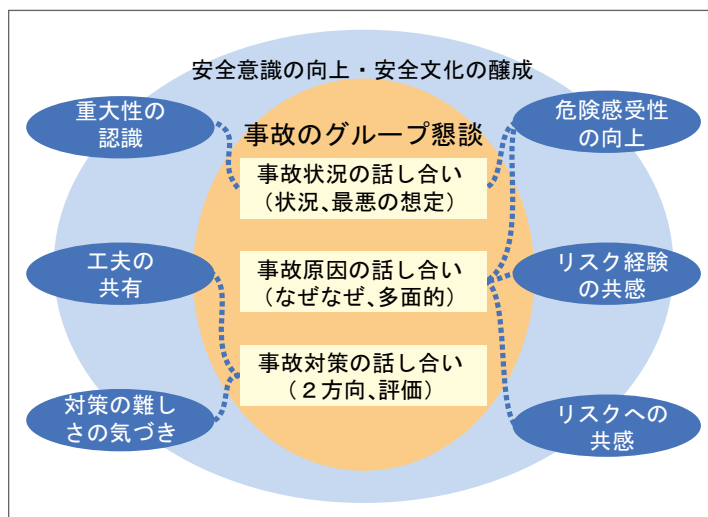


図 事故のグループ懇談会の概要と機能